

ICT 実践報告

指導形態：生活単元学習・造形

授業のねらい

- ・教師の支援をできるだけ受けずに、学習に参加することができる。
- ・教師の支援をできるだけ受けずに、学習の内容を理解することができる。

具体的な活用場面



○導入

スライドの中で、使用する道具、材料、見本を提示し、作成の流れをムービーで撮影した映像を使用。MTは必要に応じて注目して欲しい箇所を指さしで示し、一人一人が学習に見通しがもてるよう支援する。

S Tはテレビに注目するよう必要に応じて指さしをする。ムービーから指示が聞こえるので言葉がけは控えている。

○実際の学習の様子

S Tはほとんど支援を要さず、児童一人一人がテレビ画面から今日の学習についての理解を進めている。自立的に学習に参加する様子が見受けられる。

成果と課題

- ・教師が前に出て演示する際は、見て欲しい手元に注意を向けるのが難しい。しかし、手順ムービーを使用することで、注目して欲しい手元の動き、道具の動かし方、扱い方に焦点を絞ることができ、子どもたちに伝わりやすい。実際に、切るパーツを自分で選ぶ様子や、手順通りに工程を進めるようが見られ、見通しがもちやすく学習意欲が向上している。中にはムービーから作成手順を理解し、全て一人で完成させることができた児童もいた。
- ・教師の説明に10分耳を傾けることは難しいが、ICTを用いた説明であると可能である。繰り返し学習の導入に用いたことで、どの児童も10分程の手順ムービーに注目することができるようになった。

